

令和7年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立別府支援学校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	* 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 * 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 * 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼	主体性、医療的ケア、ICT活用といった校長のビジョンが各学部、分掌主任に浸透している。各学部で「自立活動の実践」を目標に取組が進められている。
	2 組織的運営・責任体制	* 教育目標、学校運営計画との一致 * 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 * 幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備	校長から、各分掌主任に教育目標や指示が適切に行われている。主幹教諭が各分掌等に入っているため、組織的な構造となっており、組織で学校運営に取り組んでいる。
	3 服務監督・危機管理体制	* 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 * 事件・事故発生時に迅速に対応するための実効性のある訓練や研修の実施 * ヒヤリハット報告（医療的ケアを含む）の迅速な情報共有体制の整備	危機管理マニュアル等、校内の整備がなされている。ヒヤリハット事例の報告方法、情報の共有方法、対処の方法が詳細に決められているが、アクシデント報告数に対してヒヤリハット報告数が少ないため、教職員へのヒヤリハット報告に対する意識向上や共通理解といった、安全への配慮を定着させるための意識改革の推進が求められる。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	* 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 * 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組 * 地域・企業・関係機関と連携・協働した取組	アンケート調査を参考にした保護者との具体的な連携方法が示された。学校ホームページでは行事や体験活動が掲載され、発信がされている。また、教員や生徒が就職を見据えて、企業見学を行っている。
	5 センターの機能	* 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 * 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組	保育所、幼稚園、高等学校を対象に巡回相談に取り組み、指導方法や支援体制、家庭との連携に関する事項の指導助言を行っている。
学習指導	1 授業	* 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 * チーム・ティーチングのよさを生かした指導の実践 * 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 * 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組	学校教育目標に則った個別の指導計画を立案し、授業に取り組んでいた。初年度であるが、各学年ごとに教科別の授業の取組を工夫している。教員が自立活動の目標を念頭に置いているため、児童生徒は自主的・主体的に学習に取り組んでいる。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	* 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善	自立活動チェックリスト、精神疾患チェックリストを活用して適切な合理的配慮の提供、自立性を重んじた個別の指導計画が作成されている。
	3 授業研究・授業改善	* 計画的な授業研究の実施等による、組織的な授業改善への取組 * 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践	I～IV課程の各発達段階に合わせた授業が実施されている。また、教科の「見方・考え方」を整理し、研修から実践へ進もうとしている。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	* 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 * 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 * 定期的な職場訪問等による状況把握、定着支援	進学、就職、福祉的就労と幅広い進路であるが、一人一人の個性に合わせて行われている。また、中学部より職場体験等に取り組み、段階的にキャリア教育がなされている。
	2 職場開拓・就業体験の機会の確保	* 福祉・労働等の関係機関との情報共有、連携 * 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 * 作業学習等の学習の工夫・改善への取組 * 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実	近隣の事業所と連携して、文書の三つ折り・封入やシール貼りの作業を請け負ったり、生徒のペースに合わせたものづくりなどの作業学習が行われたりしている。
豊かな心・健やかな体の育成	1 生徒指導	* 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 * 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組 * 情報モラル等、社会生活に必要な課題に対する適切な対応	保護者とは災害対策や進路選択等に向けた情報提供・情報交換を行っている。また、医療的ケアや疾患等、全児童生徒の課題と支援状況を学部会・学年会で共有している。SNSの使用方法についても、各学部で指導が行われている。
	2 教育相談	* 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 * 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組	月に2回のスクールカウンセラーの勤務日には、保護者や本人が相談で活用している。
	3 特別活動	* 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 * 交流及び共同学習への積極的取組	生徒会が要望する活動を年間行事である特別活動に組み入れている。また、立命館アジア太平洋大学（APU）との国際交流等、交流に積極的に取り組んでいる。
	4 安全管理・医療的ケア	* 幼児児童生徒の健康管理のための取組 * 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り * 校内の医療的ケア実施体制の整備	医療的ケア児に対して、健康観察、検温、血中酸素濃度の測定を行い、異常がないかを確認することで、安全に学校生活を過ごすことができるようにしている。
総合評価	校内の落ち着いた雰囲気や児童生徒の明るく集中して学習に励む姿から、児童生徒と教職員との間に深い信頼関係が醸成されていると感じられた。校長のリーダーシップのもと、学校教育目標や基本方針がミドルリーダーを通じて各学部・分掌へと円滑に共有されており、組織全体で児童生徒に向き合い、理解を深めようとする体制が構築されている点は高く評価できる。今後は、優れた授業案や教材を個人のものに留めず、学校の資源として蓄積し、効果的に継承・活用するための仕組み作りが期待される。組織として成長し続けようとする努力の積み重ねが着実に成果を上げている。今後もさらなる進化を遂げ、継承されていく環境の構築に期待する。		
校長コメント	評価の中で、児童生徒と教職員の信頼関係や、組織全体で一丸となって教育活動に邁進する姿勢を高く評価いただいたことは、教職員一同にとって大きな励みとなった。一方で、授業案や教材の共有・蓄積という「組織としての知財の継承」については、本校がさらに進化するための重要な鍵であると認識している。今後は、個々の教員の優れた実践を学校全体の財産として共有し、どの教室においても質の高い教育が継続的に提供できる体制づくりに注力していく。今回の結果を真摯に受け止め、児童生徒がより一層輝ける学校を目指し、全教職員でたゆまぬ努力を続けていく所存である。		